

国東半島

国東半島は大分県の北東部に位置し、緑豊かな森林や人口の少ない農地、古代の宗教文化で知られています。自然のランドマークには、国東半島の最高地点である両子山から豊後高田市を通り周防灘へと流れる桂川、また古代の礼拝の場であった高さ 721 メートルの両子山等が含まれます。

市町村には大分空港の本拠地である国東、杵築、日出、そして半島北西部の豊後高田等があります。半島の北西部に。日本のこの地域のコミュニティは、奈良時代（710-794）に始まり平安時代（794-1185）へと続いた、山岳崇拜・神道・仏教を組み合わせた地元の信仰、六郷満山独特の影響を受けた文化を共有しています。国東半島周辺には両子寺や石彫りの熊野磨崖仏等、六郷満山に関連する寺院や仏像が点在しています。

もう一つの重要な宗教的ランドマークは奈良時代に設立され宇佐市に位置する大きな神社、宇佐神社です。宇佐は国東半島の自治体とみなされていませんが、近隣のこの市は文化の面で半島とつながりを持っています。この地域には見るべき物が十分すぎるほどたくさんあります。車で数日かけて半島を旅したり探検したりするのがベストです。